

第462回 発生研セミナー

日時：令和5年5月15日(月) 16:00~17:00

場所：奥窪記念ホール

16:00~16:15

Tay-Sachs 病ニューロンにおけるシナプス機能の異常

佐賀大学医学部 博士課程大学院生 張 雨萌

16:15~17:00

もやもや病の病態解析

佐賀大学小児科 教授 松尾 宗明

もやもや病は病理学的には内頸動脈終末部を中心とする動脈の内膜肥厚による進行性の内腔狭窄を呈する。わが国をはじめとした東アジアで多い疾患で、小児期は一過性脳虚血発作、脳梗塞を呈することが多く、成人期には脳出血を呈することが多い。疾患感受性遺伝子として RNF213 が同定されたが、その機能については不明な点が多く、もやもや病の病態へどのように関与しているかについては明らかではない。私たちは患者血管での病理学的検討をもとに血管内皮細胞と細胞外マトリックス、血流せん断応力に着目して仮説を立て、患者由来 iPS 細胞を用いた病態解析を行ってきた。本講演では、もやもや病の病態解析についてのこれまでの研究の流れを含めて、私たちの研究成果について紹介したい。

連絡先:幹細胞誘導分野 江良 択実(内線 6589)